

いいの山と青の山

まるがめへい野に、ふじ山の形をしたいいの山と、なだらかな青の山が、なかよくならんで立っています。

むかし、この二つの山は、なかのよい友だちでした。とても近くに、ならんでいましたし、よくにた高さの山でしたから、長い間、なかよくくらししていました。ある日、いいの山がこう言いました。

「おい、青の山よ。おれは、おまえより強いんだぞ。」

青の山も、まけてはいません。

「なに言うんだい。ぼくの方がもっと強いんだぞ。」

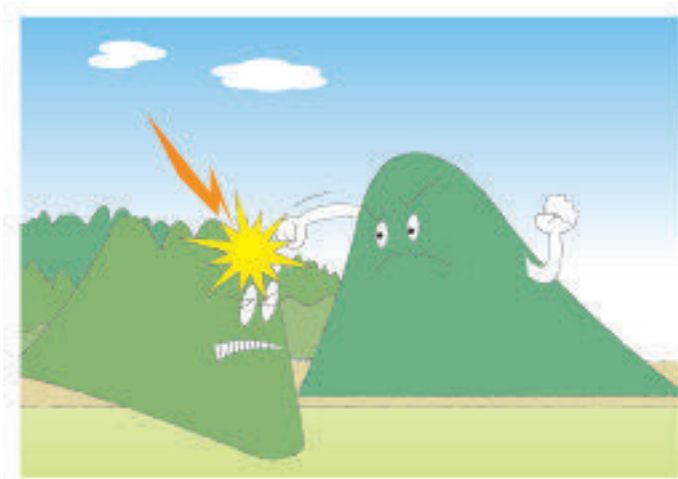
いいの山は、目を、つり上げて、

「おれの方が大きくて、どうどうとして、いるだろう。」

という、青の山も、すぐに、

「そんなことあるものか。ぼくのほうが木がたくさん生えて、あおあおとしているだろう。きみなんかより、ずっときれいなんだぞ。」

と、言いかえしました。そして、とうとうつかみ合いのけん



かになってしまいました。

いいの山は、かんかんに おこつて、とうとう 青の山の頭をス
パツと 切りとつて しまったのです。頭が なくなつてしまった
青の山は、あまりの ことに、なきだして しまいました。

そこへ、友だちの 天ぐが やつて 来て、

「おい、どうしたんだ。二人とも けんかは やめなよ。」
と 言つて、止めました。

でも、青の山は、ずっと なきつづけて います。

どれだけ そうして いたでしょう。いいの山が、はずかしそう
に、

「ごめんね。おれ……。」
後は、言ばになりません。

すると、青の山も、

「ぼくも わるかったよ。ごめんね。」

と あやまつて、にっこりわらいました。

こうして、いいの山と 青の山は、もとの ように、なかよしの
友だちに なつたそうです。

